

上肢担当 佃医師が解説

今回は、肩

肩の痛みで悩んでいませんか？

小樽市立病院 整形外科 医長 佃 幸憲

■専門分野 上肢

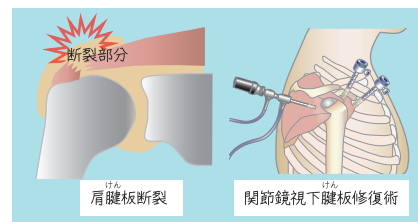
日本整形外科学会整形外科専門医、医学博士、難病指定医
日本体育協会公認スポーツドクター

・肩疾患の症状と診断について・

肩関節の診察は整形外科医でも診断に苦慮することがあります。中高年に多い肩関節障害は依然として五十肩としてひとくくりにされることが多いようです。肩の痛みを伴う疾患としては四十肩、五十肩と言われる肩関節周囲炎であることが多いですが、中には腱板断裂、変形性肩関節症などが紛れていることがあります。腱板は腕を挙げる際に筋力を発揮しますが、この機能が破綻すると上にあるものを取れなくなることがあります。また、周囲の組織の炎症や癒着により、肩関節が硬くなり、痛みを生じるようになります。これらの症状は、レントゲンでの診断は難しいため、当院ではMRIや関節造影検査を行っています。

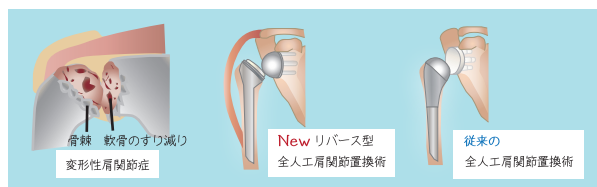
・腱板の疾患について・

治療は内服薬や関節注射、リハビリなどを行い、症状の改善が得られない場合は手術を行います。代表的な疾患は腱板断裂です。従来では大きく傷を開いて行う手術が一般的でしたが、当院では関節鏡視下手術を積極的に行っております。肩に小さな穴を数か所開け、カメラを挿入して、内部を確認しながら手術を行います。そのため、術後の傷は目立ちにくく、術後の痛みも少なく済みます。



・変形性肩関節症について・

腱板断裂を適切に治療しなかった場合や重労働を多くされる方は関節の軟骨が痛んでしまい、骨が変形してしまう変形性肩関節症を生じることがあります。この場合も最初は内服薬による治療や関節注射を行うことがありますが、肩の動きが悪い場合や痛みが強い場合には手術を行います。この場合は人工関節置換術を行います。最近では2014年より国内で使用可能になった新たな人工関節があります。手術をするには資格が必要で、手術可能な施設も限られていますが、当院では手術が可能です。



当てはまるものは、ありませんか？

- ✓ 肩が上がらなくなった
- ✓ 手を後ろに回すのがつらい
- ✓ 夜寝ていると肩が痛む
- ✓ 肩をぶつけたあと、医療機関でレントゲンで骨は大丈夫と言われたが、痛みが続いている。
- ✓ 若いころに肩のケガをしたことがある



今回は代表例として腱板断裂と変形性肩関節症を挙げましたが、ほかにも、肩関節痛を来す疾患は多く存在します。肩の痛みでお困りの際は一度受診していただくと原因を明らかにすることができると思います。ほかにも肘、手の障害も診ておりますのでお気軽に受診してください。